

# リアル秘書



# VS



# 電子秘書

## 電子秘書はリアル秘書に勝てるのか!? ④

### Round3 「客先訪問時の地図情報準備で対決」

雇いたくても人がいないなら、人が少なくても回る「省人数経営」へ

景気が良くなって仕事が増えた。復興特需、五輪特需で仕事はある。だが、人がいなくて受けられない。そんな話を聞くことが多くなってきた。景気が悪いのも困るが、良くなっても人手不足で引き受けられないのでは意味がない。時給を上げて人も来ないという声も聞く。新卒の初任給も上がっている。特に中堅・中小では思うように人が採れない。

若年人口はすでに減っていて、団塊の世代は現役を引退しつつある。雇いたくても人がいないという現実がある。そこで考えなければならぬのが、「省人化」だ。「省力化」「合理化」では足りない。頭数を減らしてもより多くの仕事をこなす「省人数経営」にシフトしなければならぬ。そのためには、ITやロボットに置き換えられる仕事は省人化、機械化し、生身の人間にはより創造性を発揮し、質の高い仕事をしてもらうしかない。生産現場ですでに起こったことが、建設現場、飲食・販売現場そしてホワイトカラーの職場でも起ころうとしている。今後ますます人口減少が進む以上、この変化は避けられない。

省人化シフトを進める事例として、生身のリアル秘書とIT化した電子秘書との対決を考えてみよう。

#### リアル秘書対電子秘書 第3ラウンド

秘書対決第3ラウンドのテーマは「客先訪問時の地図情報準備」だ。

第1ラウンドのコスト対決は、電子秘書の圧勝。第2ラウンドの顧客管理精度でも電子秘書が勝利した。今回は、客先訪問の際に、事前に地図を準備したり、

移動方法を知らせたりする業務についての勝負だ。

リアルな秘書、営業事務、アシスタントがいれば、訪問予定を見ながら必要な地図を準備してくれるだろう。以前なら地図を調べてコピーして、とやっていたかもしれないが、最近はネットで地図検索だ。移動経路もネットで検索して、プリントアウトして渡してくれる。先回りして準備してくれると助かる。しかし、それはあくまでも事前であって、紙で渡されることになる。急な予定変更や、たまたま時間が空いたような時に、「周辺にある顧客を探してくれ」といったことには対応できない。

#### 電子秘書なら地図はもちろん経路や周辺探索まで簡単に処理

これが、スマホやタブレットにもアプリとして乗っってしまう電子秘書なら、紙でのプリントアウトは不要で、地図上に訪問予定先をプロットしたり、そこから必要な顧客情報を取り出したり、経路検索アプリと連携して乗換案内をするなど朝飯前になる。

地図にプロットされたピンには、顧客のランクや案件の有無などの情報も「見える化」され、単に場所が分かるだけではない。そして、出先で時間が空いた時には、「周辺顧客サーチ」。近隣の顧客や見込先を探して地図上に表示してくれるから、スキマ時間の活用による「ついで訪問」などでも大活躍だ。

電子秘書は、ポケットの中に入れて、いつでもどこへでも連れ回せる優秀なアシスタントなのだ。



客先訪問時の地図情報準備においても、

電子秘書の勝利である。

果たして、リアル秘書の巻き返しはあるのか。第4ラウンドの対決にご期待ください。(次号につづく)



0 - 3  
リアル秘書 電子秘書



株式会社 NIコンサルティング  
代表取締役 中小企業診断士  
長尾 一洋

「ながお・かずひろ」一九九九年に株式会社 NIコンサルティングを設立し、ITを活用した営業力強化、経営改革に取り組み。自社開発の経営支援ツール「可視化経営システム」はすでに三三〇〇社を超える企業に導入された。孫子を企業経営に実践応用する孫子兵法家として、孫子流コンサルティングも手がける。「主要著書」営業マンは目先の注文を捨てなさい! 「孫子の兵法経営戦略」「営業の見える化」「仕事の見える化」「社員に見える化」「リーダーは誰だ?」などがある。

